



令和2年5月1日

研究所通信

「知の森」

第1号

丹波篠山市教育委員会 教育研究所

新型コロナウイルス感染予防のための臨時休業措置が再延長されました。

教職員の皆さんは、子どもたちの学習権を保障するために何ができるのだろうか、学校として何ができるのだろうか、日々悩まれていることと思います。

しかし、子どもたちは本当に学ぶ機会を失っているといえるのでしょうか。

確かに、「学校や園の教育活動から学ぶ機会」や「子ども同士の交流から学ぶ機会」は失っていますが、何も学んでいないわけではありません。学校や園に通わず、家で過ごす中で、子どもたちは例年にはないことを学んでいると考えられます。家の仕事を手伝う中で、家族とのつながりを深めている子どももいるでしょう。田植えや畑仕事を手伝い、あぜ道の自然に触れたり、農業の大変さを体験したりしている子どももいると思います。中には、ゲーム三昧で引きこもって過ごすことの快楽を学んでいる子もいるでしょう。反対に、自分で時間割を決めて主体的な学びの習慣形成に向かっている子もいます。

私たちも、子どもたちも、この歴史的な出来事から多くの学びを得ているはずですが。未知のウイルスに対する人間の弱さ、他者との交流を制限されたときに感じる不自由さ、学校や園など家の外で他者と協調して活動することの意味、経済活動と人の命の重みなど、ありふれた日常では考えないような問いが突き付けられています。この問いを学校の教育活動に活かすことが、今の教職員に課せられた使命です。

臨時休業措置をうけたこの間、教育活動は限りなく制限されました。そのことによって、例年当たり前に行われていたことが、行われずに過ぎていきます。では、具体的にどのようなことが例年と異なるのでしょうか。

#### ①他者と関わり、人間関係を構築する

普通に学校や園に通えば、友だちと出会います。友だちと一緒に生活し、じゃれあったり、時には喧嘩をしたり、子どもたちは人との関わりを通して多くを学んでいます。特に、4月は、出会いの月です。新入生であれば、新しい友だちとの出会いがあります。新しい先生との出会いもあるでしょう。このように、新しくなった集団で、新しい人間関係を築く機会が先延ばしにされてしまっていま

す。

## ②湧き上がる感情や衝動を共有する

春の暖かい日差しに包まれるだけで、心がうきうきする気がします。小鳥がさえずり、草木が芽吹く、外で過ごすだけで生命の豊かさに気づくことのできる春ならではの学びを友だちと共有する機会が失われています。また、子どもたちは、新しい学年に心躍らせ、成長の喜びを体で感じ取っているはずです。例年であれば、子どもたちは校庭を駆け回り、湧き上がる愉快さを友だちと共有していたことでしょう。

## ③集団のきまりや約束にふれ、社会性を育む

学校や園には、きまりや約束があります。例えば、みんなで共有する遊具や用具の使い方、給食の片付け方、生活や学習の時程など、集団で活動すると必ずきまりや約束が生じます。ときには、集団生活を安定させるために新しいきまりを定めるといふ、民主的な手続きにも参画することがあるでしょう。このように、家庭の外にある公の社会で協調的にふるまう機会が失われています。

## ④決まった時間割で生活する

平常であれば、子どもたちは週の5日間は学校や園の1日の予定に従って活動します。その繰り返しを通して、子どもは無意識に自分の生活リズムを規則正しいものに整えていきます。現在、各家庭では、保護者のみなさんが子どもの生活リズムが整うように気を付けて過ごしておられることでしょう。しかし、それは、各家庭により異なるリズムです。現在、子どもたちは集団の生活リズムに自分のリズムを合わせる必要がありません。

## ⑤学校や園の教育活動から学ぶ

学校や園の教育活動が限りなく制限され、授業や経験を通じた学習の機会が失われていることは、教職員の皆さんにとって一番気になるところでしょう。教育課程に定めた授業などの機会が失われ、子どもたちは学校や園で計画された教育活動から学ぶ時間を失っています。

他にもさまざまに想起することができると思います。

学校が再開したとき、私たち教職員は、子どもたちにどのように向き合うのでしょうか。子どもたちは、私たちにどのように向き合ってくれるのでしょうか。

各個人では見通しを持ちにくい今だからこそ、近くの同僚と大きな問いについて話し合い、学校再開後を想定することが必要です。